

## 事業計画書

事業名	ぐらんまテラス あげつち福祉カフェ
実施場所	沼津市上土町 AIビル3階
実施予定期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日

## ◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
	<p>近年、福祉事業における雇用者数が増加傾向にありますが、離職率は全産業平均よりも高く、勤続期間も短い状況となっています。（厚生労働省：労働市場分析レポートより）</p> <p>これは、それぞれの事業所の規模が小さく、福祉従事者に対する支援体制が事業者を整備されていないことが要因の一つとして考えられています。</p> <p>そのため、職場での悩みを抱えている福祉従事者に対して経験者である世話人が心を配り、茶話会形式で対応するとともに、自由に本音を話し、交流する中で本人の振り返りが深まるよう助言等を行います。</p> <p>また、介護スキルアップ、自己管理の訓練につながる講座などの開催により、職種様々な福祉に関わる人たちが情報交換、交流を図り、ネットワーク作りを促進していくことで、福祉従事者のフォロー体制を整備します。</p> <p>本事業は、平成29年4月より「ときどき福祉カフェ」として、第三・第四地域包括支援センター2階で「ときどき出張カフェ」として、東部県民生活支援センターギャラリープラザで開催し、平成29年4月～11月までに164名の参加があり、本事業には一定のニーズがあることが確認できました。</p> <p>これまで、主に特定地域（第三・第四）を主体として試行的に運営してきましたが本事業では対象を市内全域に拡大し、地域・事業所の枠を超えたフォロー体制構築をするため本事業を中心市街地で開催していきます。</p> <p>ぐらんまテラス あげつち福祉カフェ  様々な福祉従事者が集う場として、平成30年に開所予定  ◎毎月2回（第2・第4金曜日を予定）  上土町 AIビル3階（13:00～15:00）  ◎60代～80代の世話人3名～6名で対応  世話人は福祉施設での管理経験者、またハローワーク、静岡県社会福祉協議会での就職相談の経験者  ◎福祉従事者の定着支援のため、介護職、ケアマネ、看護師、障がい者支援員、社協職員、施設の職員に利用を呼びかけ（チラシ渡し、口コミ、郵送）。  世話人は本人の振り返りが深まるよう助言するとともに、介護スキルアップ、自己管理の訓練につながる講座などを開き参加を促す。  福祉従事者たちが自らの職業意識を鍛え、働く場での発信力を培う支援を目指していきます。</p>

## ◎事業効果

※事業の効果を記載して下さい。

ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記して下さい。

平成29年4月～11月末現在までのすでに行われている福祉カフェの実績

第3・第4地域包括支援センター（毎週水曜日）	28回	95名	
「ギャラリーぶらざ」（月1回）	2回	57名	
施設への出張カフェ（老健おおひら）	1回	12名	合計164名の参加

あげつち福祉カフェは中心市街地であるが駅からは少し離れるため、場所を知ってもらうために口コミ、郵送での広報に力を入れる。新装で明るく恵まれた環境のなかでの福祉関係の講座と、高齢者向けの楽しめるセミナーなど、毎回5名以上の参加者を想定した企画を検討します。

## ◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを確認して下さい。

公益性	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載して下さい。</p> <p>月2回、福祉カフェを開くことで、中心市街地にある福祉関連事業所との交流を図る。又、他の市町の福祉従事者が相談や講座参加等で中心市街地を訪れる見込みあり。新しい人たちを呼び込み、地域へは福祉人材確保への理解をアピールしたい。</p>
発展性	<p>※活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。</p> <p>福祉カフェで出会った福祉従事者との情報交換、交流によりネットワークの構築につながる。誰にとっても大事な福祉について“あげつち福祉カフェ”から発信したいと考える。</p>
地域性	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載して下さい。</p> <p>ハローワーク、県社協に県内東・中・西3カ所に福祉専門の相談員がおり、東部は沼津市に配置されている。その機関で20年近く経験した世話人がいるので、お互い連携しての定着支援ができる。</p>
必要性	<p>※事業を実施する意義や、補助金の交付が有益で質の高い事業展開につながる理由について記載して下さい。</p> <p>国、県のやるべき定着支援だが、なかなか行き渡っておらず人材の定着ができない。できることから改善をと相談業務等の経験ある私たちが自費で始めたが、年金生活者たちが自費で始めたが、複数年の継続が難しい。</p>
先導性	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載して下さい。</p> <p>介護保険が始まり利用者は苦情申し立てをする窓口はあるが、そこで働いている職員が相談できる機関はありません。福祉従事者のための福祉カフェをやっているところは少なく、離職防止、定着促進を図りたい。</p>
継続性	<p>※助成事業終了後も継続的・自立的な活動とするために、どのように取り組んでいくかについて記載して下さい。</p> <p>現在私たちはボランティアで事業を進めているが、次世代は収入を得られなければ存続が難しいだろうと思っています。そのため1～2年は広報啓発に力を入れながら、福祉カフェ利用者の皆さんの理解を得て会員制にするなど収益代に向けたことを検討中。多面的な検証を本事業を通じてすすめる。</p>